

## あの子も「この子もほっけの子

初代園長の岡本準教（浄土宗西山禅林寺派 邑光山 西蓮寺 第13世 権大僧正 規空準教上人 襄山大和尚）は、兵庫県加西市北条町、大信寺住職の傍ら教師を務め、後には民生委員、保護司と社会奉仕にも尽力された。加西市仏教会の仲間と日曜学校を開催。教育映画の上映活動では機材を自転車に積み村々の小学校を回り、弁士も務められた。

昭和12年、総本山永観堂禅林寺管長の命により布教の地を播州から京都へ。徒弟（次男）規矩穂（2代目園長、教裕）を伴い、松尾村下山田西蓮寺の住職として赴任した。



お雛まつりの様子

# 山田保育園 (西京区)

1950(昭和50)年開園

園長 岡本 康裕



ホームページ

<https://www.facebook.com/YAMADAhoikuen>

昭和24年。敗戦の混乱未だ醒めやらぬ頃。荒廃した世相を憂い、未来を担うこともたちには宗教的情操教育が必要だと痛感した準教上人は、時の京都市長 高山義二のご懇請に応え、地域社会の福祉のためそして「みほとけさまの子どもたち」を育むため保育園創設に着手した。寺総代、有志と会合を重ね荒廃した村の会議所を園舎にすべく改修に取り掛かった。土を捏ねては壁を塗り、竹を切っては垣を張る。山から丸太を切り出して砂場、ブランコ、滑り台、遊動円木と園庭遊具を作成。正に手作りの「山田保育園」が産声を上げた。

主任保母には東京の女子師範付属を出て公立幼稚園に7年勤めた娘（小林三子）を呼び寄せ、檀家の娘さんにもお手伝い頂き、昭和59年10月20日をもって、厚生省、児童福祉法、京都府知事による認可をうけることができた。定員は20名であった。その後、妹の岡本美代子が保母資格を取って加わり、経理事務も担当。保護者へのお知らせはガリ版刷り、帳簿の計算はそろばん。『月一度、回虫駆除の為の虫下し（マクリと甘草を煮出した）を鼻を摘んで飲んでいた。おやつの際に頂く肝油ドロップが甘くて美味しかった。お絵描きの用紙は藁半紙。冬の日には大きな石炭ストーブの囲いにお弁当をぶら下げて温めてもらった。そんな時代でした』親子三代、通園下さる方々から拝聴した往時の思い出話し。保護者も熱心にご協力下さり、お遊戯会の衣装・小道具などプロ裸足。勉強会では吉岡たすく先生にご講演頂いたことも。元々大正年間の建物は老朽化し建替えを迫られた。何度も会合が開かれ検討された。時に嵐山の藤本眞弘先生、光林の嶋本弘英先生がお出ましの上ご助言下さった。しかし園舎の建替えは中々進展を見なかった。

exciting,  
and interesting  
and enjoyable

平成19年、岡本康裕が3代目就任。  
平成30年3代目園舎。現在に至る



卒園児製作「ののさま」に見守られ

昭和53年、小学校教員を早期退職し岡本教裕が2代目園長に就任。昭和61年9月、鉄筋コンクリート2階建て 念願の2代目 園舎竣工。